

愛書人的印記

關於「書本上的珍珠——台日藏書票特展」（中日對照）

文／王嘉玲 展示教育組 翻譯／杉森 藍

攝影／王嘉玲、林章助

15世紀活版印刷術的發明，促成知識的普及，加速人類文明的高度發展，與圖書有十分密切關係的藏書票，亦隨著人類文明的腳步演進了近五百年。藏書票以往所關注在於其藝術價值，國立台灣文學館舉辦「書本上的珍珠——台日藏書票特展」，則希望進一步闡釋藏書票背後隱含的文化意涵，並發揚人類愛書歷久不變的共同情感。

15世紀における活版印刷術の発明により、知識の普及が促され、人類の文明は急速な高度発展を遂げてきました。図書と非常に密接な関係を持つ蔵書票は人類の文明の歩みとともに500年近くの進化を遂げています。蔵書票はこれまでその芸術的価値に注目されていましたが、国立台湾文学館主催の「書籍の真珠—台日蔵書票特別展」では、蔵書票の背後に隠された文化的意義を更に明らかにし、人類に共通する書物への変わらぬ愛着をより深められることを望んでおります。

「書本上的珍珠——台日藏書票特展」為讓觀眾對於藏書票能有全面性的瞭解，主要故事軸線是從宏觀到微觀的展示脈絡，首先「解碼藏書票」，呈現1453年古騰堡在印刷技術的革新以來，西方藏書票的產生與沿革，說明藏書票的緣由與符號，並透過影像說明其製作過程。其次透過台灣藏書票歷史年表，有系統介紹自日治時期至現代藏書票在台灣的推展。台灣藏書票的推廣首推日人西川滿，由於他在文壇的影響力，也帶動當時台灣作家使用藏書票的風氣。最後展出11位日本名收藏家之珍藏，日本是全世界藏書票最興盛的國家之一，透過日本藏書票的對照讓原由日本傳入的台灣藏書票，更可看出自身獨特地域風格與題材。此展最重要地傳遞愛書的精神，期待在這場文學與美學的饗宴中，譜成動人的翰墨因緣。

「書籍の真珠—台日蔵書票特別展」では、蔵書票を全面的に理解できるよう巨視的なものから微視的なものへと展示していきます。まず、「蔵書票の解説」では1453年グーテンベルクによる印刷技術の革新以来、西洋における蔵書票の誕生と沿革を表現し、蔵書票の理由と符号、更に映像を通してその製作過程を説明いたします。次に、台湾蔵書票の歴史年表を通して、系統的に日本統治時代から現代に至るまでの台湾における蔵書票の発展をご紹介します。台湾蔵書票普及の第一人者である西川滿による文壇への影響力が、同時に当時の台湾作家に蔵書票を使用する風潮をもたらしました。最後に世界でも蔵書票の最も盛んな国家、日本の名コレクター11名の珍藏品を展示し、日本の蔵書票との対比を通して、日本から伝わった台湾蔵書票の特有な風格とテーマを読み取



展場入口展出等比例複製的活字印刷機，該機器是由古騰堡所發明，對活字印刷術有極大貢獻。

展示場入り口には原寸大の複製活版印刷機を展示。これはグーテンベルクによって発明され、活版印刷術に多大な貢献をもたらした。



發現最早的藏書票為「天使捧紋章」（上圖）及「刺蝟」（下圖）。

現存する最古の藏書票「盾を支える天使」（上図）及び「ハリネズミ書票」（下図）。

藏書票的源起與發展

藏書票，拉丁文為「Ex-Libris」，英文則譯為「From the library of」、「From the books of」，意思是「某某人所藏」或「某某人藏本」。主要用途為浮貼於書的扉頁，在於宣示書籍所有權，有如中國的藏書章。藏書票起源於中世紀的德國，由於當時因印刷術尚未普遍，書籍大多由修道院所藏，形同是種財富，藏書票如同「貴族的身份證」。

目前發現最早的藏書票為15世紀末德國的卡爾特教團修道院（Carthusian Monastery）藏書中現的「天使捧紋章」藏書票及德國Schönstett家族的牧師Johannes Knabensberg所藏的「刺蝟」藏書票。早期的藏書票多以雕刻紋章圖案為主，16世紀活字印刷術更普及，出版業漸趨發達，藏書票的委託製作逐漸增加，最著名的是被譽為「藏書票

ることができるでしょう。本展覧では愛書の精神を伝え、文学と美学が織り成す感動的な出会いの場となることを期待しております。

藏書票の起源と發展

藏書票はラテン語で「エクスリブリス（Ex-Libris）」、英語では「From the library of」、「From the books of」と訳されており、「だれその所蔵」、「だれその蔵本」という意味です。主な用途としては、本の見返し部分に貼りつけ、その本の持ち主を明らかにすることにありましたが、中国では蔵書印などがこれに当たります。藏書票の起源は中世期のドイツであり、当時は印刷術がまだ普及しておらず、書籍の多くは修道院によって所蔵され、ある種の財産と見なされていた。藏書票は「貴族の身分証明書」のよ

之父」德國藝術家杜勒所曾創作之款式，在藏書票發展史上被定位為「老德國式」（Old German Style）。

18世紀是藏書票發展的黃金時期，當時歐洲銅版畫盛行，銅版的細膩正適合製作藏書票，使得藏書票的製作更加精美。19世紀工業革命後，由於機器的大量複製，「通用藏書票」流行。另外許多藝文人士仍崇尚以手工印製的書票，許多著名藝術家相繼投入，在當時歐洲掀起藏書票的收藏風氣。

藏書票在台灣

台灣的藏書票源於日治時期，1930年代開始透過台灣日日新報社長河村徹、台灣總督府圖書館館長山中樵、杉浦和作、西川滿等日本人在《台灣日日新報》、《文藝台灣》以及「台灣愛書會」之《愛書》等刊物的鼓吹，台灣作家文人如楊熾昌、吳新榮、賴建銘、鄭津梁等都受其影響，亦開始使用藏書票這項精緻的文化媒介，替文學與藝術的相遇，創造相得益彰的交融。

日治時期藏書票在台灣推展，首重日籍文學家兼裝禎家西川滿，曾創辦《華麗島》、《文藝臺灣》等文學雜誌，其使用藏書票多達二十餘種並帶有濃厚的台灣民俗氣息，如：城門、獸牌、虎、福祿壽等。另外與西川滿交好的台灣文學作家亦受其影響，如作家吳新榮曾於出版的《震瀛隨想錄》使用「媽祖」藏書票；詩人楊熾昌則以「獅子啣劍」為其藏書票圖樣。

1945年戰後，大批日人返國，藏書票的發展呈現停滯狀態。1980年代後因社經環境的改變，台灣藏書票在海外藝術學者帶入西洋美術觀點開創

うなものでありました。

15世紀末にドイツのカルトウジオ修道院（Carthusian Monastery）の蔵書中から発見された「盾を支える天使」及び、ドイツのSchönstett家の牧師ヨハネス・クナベンスベルク所蔵の「ハリネズミ書票」が現存する最古の蔵書票とされています。初期には紋章などの彫刻が主流でしたが、16世紀に入って印刷術が更に普及し、出版業がしだいに発達すると、蔵書票の委託製作も増加していきました。「蔵書票の父」と称えられているドイツの芸術家デューラー（Dürer）によって創作されたデザインは、蔵書票発展史において、「オールド・ジャーマンスタイル」（Old German Style）として位置づけられています。

18世紀になると、蔵書票の発展は黄金期を迎え、当時のヨーロッパでは銅版画が盛んに行われるようになり、その細やかさが蔵書票の製作に非常に適していたため、さらに精緻なものとなりました。19世紀の産業革命後、機械による大量の複製で「市販蔵書票」が流行しました。また、多くの文芸家たちが手工による蔵書票を重宝し、多数の有名な芸術家が次々とに加わったため、当時のヨーロッパでは蔵書票コレクションの気風が高まっていました。

台湾における蔵書票

台湾の蔵書票は日本統治時代の1930年代に、台湾日日新報社長の河村徹、台湾総督府図書館館長山中樵、杉浦和作、西川満らの日本人による『台湾日日新報』、『文芸台湾』及び「台湾愛書会」の『愛書』等の刊行物における鼓吹を通して、楊熾



「藏書票在台灣」展區，展出台灣重要老藏書票。
「台灣における藏書票」エリアでは台湾の重要な古藏書票を展示。

新的契機，開始蓬勃發展，近年來在各方的推動下，重要展覽與各國交流活動如火如荼地展開，為藏書票藝術注入更多活力。

日本藏書票名家

19世紀日本因受西化影響成為藏書票出現最早的亞洲國家，1872年日本即有藏書票的出現。由於版畫深入每個家庭，再加上印刷業的發達，以及人民的讀書風氣相當的興盛，在「日本書票協會」的推動下，藏書票發展十分精進，不僅不計其數版畫家投入藏書票的製作，更有眾多藏書票介紹書籍的出版，成為現今世界藏書票最興盛的國家之一。

本展區展出11位具代表性的現代日本藏書票收藏家，展出自身收藏品之精華。每位收藏家都有各自收藏動機與喜好主題，關根烝治因筆名「吞喜

昌、吳新榮、賴建銘、鄭津梁らの台湾作家や文人が影響を受け、藏書票というこの精緻な文化的な媒介を通して文学と芸術を見事に融合させました。

日本統治時代の台湾における藏書票の発展は、文学者兼装丁家である西川満によって推し進められました。『華麗島』、『文藝台湾』などの文学雑誌を創刊し城門、虎、獣牌、福祿寿など20数種にもおよぶの台湾の民俗情緒豊かな藏書票が使用され、西川満と親交のあった吳新榮は『震涛随想録』にて「媽祖」の藏書票を使用し、詩人の楊熾昌は「獅子啣剣」を藏書票のデザインにするなど、台湾文学作家もその影響を受けました。

1945年、戦後日本人が引き揚げた後、藏書票の発展は一時停滞しましたが、1980年代末期における台湾の社会、経済や環境の変革により、台湾藏書票は海外の学者によって、西洋美術の観点が入り入れられ、新たな転機を迎え発展し始めました。近年では各界の推進のもと、重要な展覽や各国との交流活動が盛んに行われる中、藏書票芸術のために更に多くのエネルギーが注がれています。

日本の藏書票作家

日本は19世紀、西洋化の影響により藏書票をアジアで最も早く取り入れた国でありました。版画がどの家庭にも浸透しており、更に印刷業の発達及び人々の読書の気風も盛んであったため、「日本書票協会」の推進のもと、藏書票は進歩的な発展を遂げ、多くの版画家が藏書票の製作に打ち込むだけでなく、藏書票関連の書物も数多く出版され、今日では、世界で最も藏書票の盛んな国家の一つとなっています。



本館邀請11位日本藏書票收藏家，提供珍貴藏書票參展。
本館では日本藏書票コレクター11名の貴重な藏書票を展示。

芳亭」，日文發音與Don Quixote唐吉訶德相似，以此主題製作收藏書票；松菱多津男主要收藏以《格列佛遊記》與以「船」為主體之書票；現任日本書票協會會長內田市五郎所收集的書票多與文學相關；羽田壽夫為橫濱黑船館館長，擁有江戶時代迫使日本開國的美國佩里提督（Matthew Perry）為主題書票；森和子為此展中唯一女性收藏家，因喜愛自然，所收藏的書票多以山、樹、花、鳥等主題；小枝昭一、工藤讓、青木康彦、金子元久等人擁有世界之名版畫家所製作精美藏書票。

小結

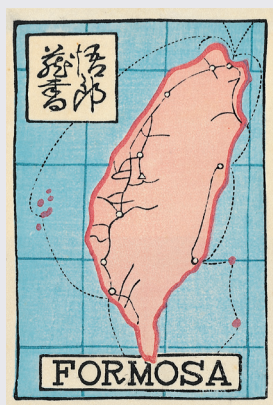
在科技進步的現代，網際網路的出現使得資訊取得越來越便利，相對地有形的書籍卻離民眾越來越遠了。本展透過藏書票與書本密不可分的關係，藏書票背後隱含著擁有者與書本間特殊的情誼與寫作者對作品的欲傳達意念，期待藉此傳遞「愛書、藏書、惜書」的精神。✎

本展覽エリアでは代表的な日本藏書票コレクター11名を紹介するとともに、そのコレクションの精髓を展示します。各コレクターには、収集の動機やコレクションのテーマがあり、関根烝治氏はペンネームが「吞喜芳亭」であることから、ドン・キホーテをコレクションテーマとしており、松菱多津男氏は主に「ガリバー旅行記」及び「船」をテーマにした藏書票を、日本書票協会会長内田市五郎氏は文学に関するもの、横浜黒船館館長である羽田寿夫氏は江戸時代に日本に開国を迫ったペリー提督（Matthew Perry）をテーマとしたもの、本展覽で唯一の女性コレクター森和子女史は自然を好むため、山、木、花、鳥などのものをコレクションしています。また、小枝昭一、工藤讓、青木康彦、金子元久氏らは世界の名版画家によって製作された精緻な藏書票を有しています。

おわりに

科学技術の進歩している現代において、インターネットの出現により情報収集がたえず簡便になっていく中、形ある書物は人々からますます疎遠になってきました。本展示では、藏書票と書物の密接な関係を通して、藏書票の背後に秘められた書票主と書物の間の特殊な感情や作者の作品に託した思いを、この場を借りて「愛書、藏書、惜書」（書を愛し、書を收藏し、書を大切にする）精神を伝えられることと信じております。✎

藏書票展出作品精選（一）



票主 悟郎
潘元石提供



票主 台北帝國大學圖書館
潘元石提供



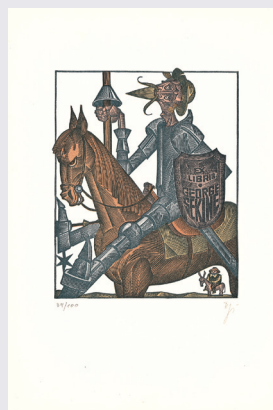
票主 關根烝治
國立台灣文學館典藏



票主 吳新榮
潘元石提供



票主 西川滿
潘元石提供



票主 關根烝治
國立台灣文學館典藏



票主 楊熾昌
潘元石提供

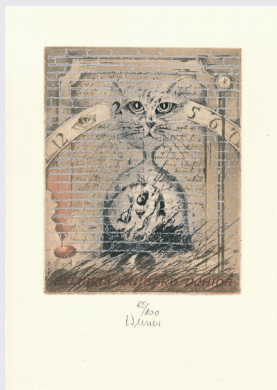


票主 西川滿
潘元石提供

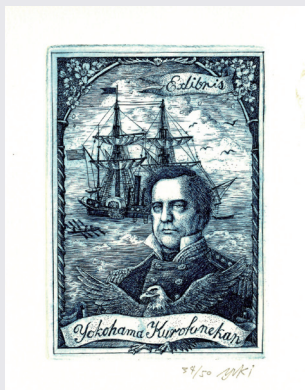


票主 松菱多津男
國立台灣文學館典藏

藏書票展出作品精選（二）



票主 內田市五郎
國立台灣文學館典藏



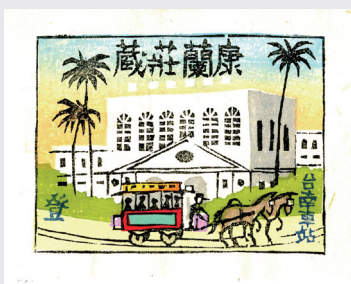
票主 羽田壽夫
國立台灣文學館典藏



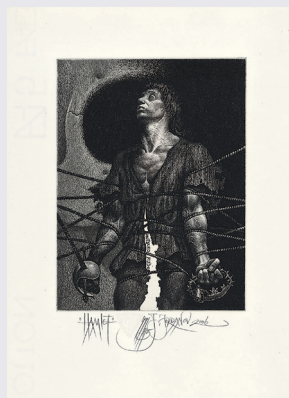
票主 江副章之介
國立台灣文學館典藏



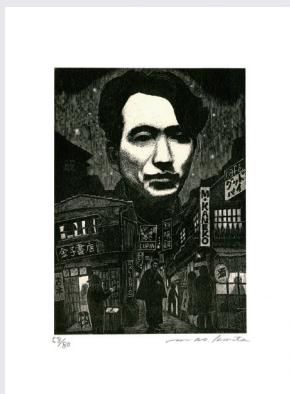
票主 小枝昭一
國立台灣文學館典藏



票主 佐佐木康之
國立台灣文學館典藏



票主 工藤讓
國立台灣文學館典藏



票主 金子元久
國立台灣文學館典藏



票主 森和子
國立台灣文學館典藏



票主 青木康彦
國立台灣文學館典藏